

モザイク通信

No.119 January 2021

発行：モザイク会議 議長 森敏美

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104

モザイク会議ホームページ：<https://maa-jp.com/> Email: maaj@maa-jp.com

編集／作成：モザイク会議運営委員会

モザイク展 2021

募集要項が出来ましたので会員のみなさんにお送りします。

作品サイズの規定に変更があります。確認をよろしくお願いいたします。

新しい審査員

審査員の顔ぶれが変わります。村田真さんが抜けて、美術評論家の藤井雅実さんが加わり、前回もお願いした藤原えりみさんとお二人に審査をお願いすることになりました。藤井さんの紹介は次号に載せます。

審査員の決定には総会の承認が必要と考えていますが、多くの人が集まる集会が開きにくいので、運営委員会で検討のうえ決めました。今回はこれで承認して頂きたいと考えています。意見がありましたら運営委員のどなたかにその旨伝えてください。

企画展・あれこれ試しました

オリエで開催予定だった「あれこれ試しました」を企画展としてあざみ野で同時に開催することになりました。前号で会員ならだれでも出品できると書きましたが、定期展「モザイク展2021」の出品者に限ることになりました。出品規約を同封しますので検討して下さい。

また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、展覧会の内容などに変更もあるかと思っておりますので、その点含んでおいてください。

会費についてのお知らせ

2020年度2021年度の会の活動が休止状態であることを考慮して、この2年間の会費を半額にすることに決めました。したがって、2年で12000円ということになります。総会で決定すべきことですが、これも運営委員会で決めました。意見のある方は連絡ください。したがって2020年度会費を振り込まれた方は、今年度の会費は不要になります。未納の方は、今年度の4月までに2年分12000円の振り込みをお願いします。問い合わせは会計の桜井真智子さんに連絡してください。

振込先 ゆうちょ銀行口座記号：10000 番号：97185511
他の銀行からの振込の場合は以下ようになります。
ゆうちょ銀行店名：008（ゼロゼロハチ） 店番：008
普通預金口座：97185511 名義：モザイクカイギ

国際コンクール Picassiette 2020 会員 3 名が受賞！

10月にフランスシャルトルで国際モザイクコンクール「ピカシェット 2020」が開かれました。今回のコンクールでテーマ部門と自由課題部門でモザイク会議の会員3人が受賞しました。課題部門では「Ethni'k」（民族性、異国性）というテーマで若月弓枝さんが一席を受賞。自由部門では妙川幸子さんが一席、二席には戸祭玲子さんが入るという信じられない結果になりました。妙川さんは2010年にアマ部門で二席、前回2018年にはプロアマの区別がなくなった総合の部門で三席という活躍ぶりです。<https://chartres-mosaique-les3r.com/pages/mosaique-9.html>

テーマ「Ethni'k」部門



一席
若月弓枝
Gathering, 50 x 60 cm



二席
REUSS Alexandra



二席
TERPEND Stéphanie



三席
CANTIN Colette

自由部門



一席
妙川幸子
Traces of long absence, 50 cm×40cm



二席
戸祭玲子
木霊II, 41 x 41 cm



三席
ZOURE Zéliya

ピカシェットの家 La Maison de Picassiette

シャルトルにはモザイクで覆われた「ピカシェットの家」と呼ばれる家があります。家の内も外も、床から天井まで、庭もすべてタイルや皿のかけらで覆われています。これは当地の墓守のレイモン・イジドールが1938年から1964年に亡くなるまで、一人で作り上げたものです。この国際モザイクコンクールはそれを記念するもので、2年毎に開かれ、プロアマの総数300点以上のモザイク作品が並びます。

レイモン・イジドール Raymond Isidore 1900年9月8日生～1964年9月7日没

1938年 モザイク制作開始

体を壊して失職。キリスト教の図像をモザイクにした。

夢で見たエルサレムの景色をモザイクにした。

1954年 ピカソも見学

彼の死後1979年まで妻が居住

1981年 市が所有

1983年 国の歴史建造物に指定および
ミュージアムとして公開



ピカシェット Picassiette

イジドールはゴミなど人が捨てたものを拾って作品に利用していた。フランス語で他人のお皿からつまみ食いをするピク・アシェット pique assiette という言葉から、残り物を漁る人という意味とピカソの名前にもかけて、町の人たちが彼をピカシェットと呼ぶようになったとか。

今やお皿やカップなどの食器や日常生活で使われる様々な物を素材にしたモザイクのスタイル名として定着している。



クレオ・ムッシ Cleo Mussi (イギリス)

<https://www.mussimosaics.co.uk/index.php>



ギーラ・レイバーク Gila Rayberg (アメリカ)

<https://www.gilamosaics.com>

モザイク展案内

松本治子・妙川幸子 二人展「Mosaic Time」

2021年2月9日(火)～3月6日(土)

ギャラリー アート フォー ソート 中央区銀座8-10-4 和孝銀座8丁目ビル1F <http://artforthought.jp>



Mosaic Times ART FOR THOUGHT

Mosaic Times
松本治子・妙川幸子 二人展
Haruko Matsumoto Sachiko Myokawa
2021年2月9日(火)～3月6日(土)
11:00～18:00(最終日17:00) 日曜日休廊
GALLERY ART FOR THOUGHT アートフォーソート
東京都中央区銀座8-10-4 和孝銀座八丁目ビル1階 〒104-0061
TEL/FAX 03-6228-5922 <http://artforthought.jp>



銀座駅: 銀座線、日比谷線 A3出口より徒歩6分
新橋駅: 銀座線1番出口より徒歩6分 / 東山手線 銀座口より徒歩7分
東銀座駅: 日比谷線、都営浅草線 A1出口より徒歩6分

ニューヨークのモザイク

ニューヨークの地下鉄駅は、アートを積極的に取り入れており「地下美術館」という異名を持ちます。交通機関 MTA はアーティストにプロジェクトを依頼したり、公募したりしますが、ほとんどのモザイクは、アーティストが描いた絵を世界有数のモザイク制作会社がモザイクに翻訳しています。その翻訳能力は素晴らしく、作品を見るたびに勉強になります。半日で10点ぐらいは十分見られますので、NYに行った際にはおすすめです。何百点もある上に、常に新しい作品が設置されているのでエンドレスです！今回は、目の覚めるような鮮やかな作品を紹介します。ドミニカ出身のアーティスト Firelei Báez とドイツの制作会社 Franz Mayer of Munich です。ドミニカ出身者の多い地区にある駅に、ドミニカの伝説の謎の生き物、不思議な肌にくむくじゃらで足が前後逆についている女「シグアパ」がテーマの作品です。(文・写真 木下綾)

<http://web.mta.info/mta/aft/permanentart/permart.html?agency=nyct&line=C&artist=1&station=1>

